

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成21年度:17.

心拍数変動を用いた母乳アロマ効果の検討

澤田奈那子

心拍数変動を用いた母乳アロマ効果の検討

NICU 澤田奈那子

背景

カンガルーケア、タッチケア、抱っこなどは母児の絆の形成や児の安静を図る手段として有用であるが、面会出来ない母児では実施が困難である。一方、新生児が母乳の匂いを嗅ぐこと（以下、母乳アロマ）がそれらの代わりに実施されることがあるが、その有効性を調査した報告はない。

目的

母乳アロマが母性的養育環境の提供として有効かどうかを調査する。

方法

保育器収容中の時間授乳の児2名に対し、注入1時間前に滅菌ガーゼに母乳を湿らせ30分匂いをかがせた。母乳アロマ施行前、中、後それぞれ30分間の心拍変動をGMS社製MemcalcシステムTarawa/winソフトを用いて解析した。リラックスの指標は、HF（副交感神経活動の指標で、増加するほどリラックスした状態）、LF/HF（交感神経活動の指標で、減少するほどリラックスした

状態）、1/fゆらぎ（値が-1に近づくほどリラックスした状態）を用いた。

結果

A児は2回調査し、2回ともHFは増加し、1/fゆらぎも-1に近づいたが、LF/HFは増加した。B児は5回調査し、そのうちHFの増加は3回、LF/HFの減少は1回、1/fゆらぎが-1に近づいたのは2回であった。

考察

今回の調査では、母乳アロマによりリラックスの状態が得られたかは明確にならなかった。対象児が少なかったこと、空腹の場合、母乳の匂いが活動性を上げる可能性があること、B児は調査中にN-DPAP施行期間があり母乳の匂い刺激が不十分であった可能性があることなどが理由として考えられる。今後それらを踏まえ検討を進めたい。